

## めったにおこらないけれど、いざおこると大変なこと

運営委員会 安全委員長 樽井 智

日本語学校に集まる子どもたち、教職員、そして保護者の安全を守るのが、安全委員会の活動です。安全を守るには、安全をおびやかすかもしれないもの、つまり「危険」を想定しなければなりません。「危険」にはそれがどれくらい頻繁におきるか、それがおこるとどれくらい大事（おおごと）になるかによって、図のように4つに分類されます。

頻繁におきて、大事にいたることは、日本語学校の活動からはじめから除外されるようにしています。あまりおきないし、おきても大事にはいたらないことは、優先順位は低くなります。そこで残りの2マスの対策が日常的には大事です。

危険の種類	よくおきる	あまりおきない
おきると大変	食物アレルギー（ナッツ）など	火事、自然災害、不審者の侵入など
おきてもそれほど大変ではない	小さなけが、気分が悪くなるなど	

よくおきるが、それほど（ふつうは）大変なことにはならない、という危険には、例えば校内で転んだ擦り傷などがあります。「ふつうは」としましたのは、それでも廊下を走ってぶつかると思わぬ大けがもおこりうるからです。安全パトロール、ファーストエイド室は、日々、これらの危険に、予防・対処をしています。



あまりおきないけど、いざおきると大変なこと - 火事、自然災害、不審者の侵入など - に対しては、避難訓練、ロックダウン訓練の実施、医療緊急時対策といった「マニュアル」をつくり、練習することで、「いざ」というときに全員が協調して速やかに危険に対処できるよう備えています。

「いざ」というときにスムーズに動けるように、先生の指導のもと、子どもたちと教職員は毎年1回の避難訓練、ロックダウン訓練に励んでいます。

さて、私たち大人はどうしたらいいのでしょうか？ 実は日本語学校ではすでにいろいろな対策を行っており、それを利用することで、危険に備えることができます。

- 避難経路の確認（廊下、カフェテリア、等に掲示）
- 避難訓練、ロックダウン訓練への参加
- 医療緊急時の通報の理解（まわりの学校教職員に通報）

大人も子どもも「いざ」というときにどう行動すればいいか、disaster preparedness plan を用意し、家族でも話し合っておくといいでしょう。



安全対策という仕事は、「めったにおこらないけれど、いざおこると大変なこと」を主な対象としています。備えあれば憂いなし、週一回の貴重な時間をみな安全に楽しめるようにしていきましょう。私たち安全委員会も教職員の皆様と協力して、このコミュニティーをいっそう安全な場所とできますよう、努力していきます。

